

Title	古書流通から見た地域社会：古書の町・ブックタウン運動を考える
Sub Title	
Author	熊田, 俊郎(Kumada, Toshio)
Publisher	三田社会学会
Publication year	2009
Jtitle	三田社会学 (Mita journal of sociology). No.14 (2009.) ,p.1- 2
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	特集: 古書流通から見た地域社会
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA11358103-20090000-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

古書流通から見た地域社会 —古書の町・ブックタウン運動を考える—

2008年度大会シンポジウム企画担当 熊田 俊郎

2008年7月12日三田社会学会大会において、標記のテーマでシンポジウムを開催した。まず企画趣旨とシンポジウムの構成を再掲することから始めたい。

趣旨：本を取り巻く情勢の変化は激しい。その実態はともかく、人々とくに若者の本離れが言われて久しい。よく言われることであるが、その中での出版点数の増加。町の本屋の閉店、一方でバブル崩壊期に起こったオフィスビルの空きフロアへの本屋の進出は景気回復後も継続しているようである。そして郊外型書店の進出。新刊書とはかなり性質を異にする古書流通の世界も、新刊書と並行して新たな波が押し寄せている。例えばブックオフに代表される郊外を中心とした大型大量販売の形態である。そしてアマゾンに象徴される新刊書・古書を通じたインターネットの影響の増大である。われわれは、藤田弘夫、大内田鶴子（江戸川大学・非会員）を中心に日本の古書専門店街である神田神保町とヨーロッパで起こったブックタウン運動によるまちづくりの比較研究を行ってきた。この共同研究をもとに本を通してみた社会構造の変化を考えてみたいということで企画したものである。知的資源というものの流通、専門店街の形成にいたる集積、地域社会の崩壊と再生、といった問題に本という素材を使って少しでも迫れるのではないかと考えている。

報告：

1. 藤田弘夫（慶應義塾大学）…古書の町から見えてくるもの（総論）
2. 大内田鶴子（江戸川大学）…古書流通と神保町（日本）
3. 皆吉淳平（芝浦工業大学）…ヘイ・オン・ワイとチャリングクロス（英国）
4. 石井清輝（慶應義塾大学大学院）…高遠・只見と不忍ブックストリート（日本）

コメンテーター：

土居洋平（山形短期大学）…地域振興の観点から

高岡文章（福岡女学院大学）…ツーリズムの観点から

コーディネーター：熊田俊郎（駿河台大学）

（所属はいずれも当時）

今回のシンポジウムは、2004年度から2006年度にかけて科学研究費の補助を受けて行われ

たヘイ・オン・ワイと神田神保町の比較研究(研究代表者・大内田鶴子)を中心にその後の関連調査を含めて行われた一連の研究による知見をもとにしている。同研究の成果はすでに『神田神保町とヘイ・オン・ワイ—古書とまちづくりの比較社会学』(2008年7月、東信堂刊)として公刊されている。シンポジウム報告者は全員が同書の執筆にかかわっている。したがって『三田社会学』誌において特集を組むに当たり、通常の新規論文のみによる特集を組むことは困難であるため次の方針で臨むことにした。まず発言の主要部分と同書と重なるためそちらを参照いただくことにした。ただし概要がわかる必要最小限の内容について何らかの形で触れられるようにした。その上で特集を構成する原稿は、シンポジウムでの質疑応答や本の執筆後の展開を踏まえたものとするにことにした。

知的資源の流通と地域社会の変動を結びつける試みは、新しいものであると自負している。報告の中で紹介した事例もその後、それぞれ新たな展開を見せている。われわれは今後も今回のシンポジウムで取り上げた動きを見守りたい。またこの特集をご覧になった方がこうしたテーマに関心を持ってそれぞれの立場からご教示くだされば、それはうれしいことである。

(くまだ としお 駿河台大学法学部)